

エルニーニョ現象発生時に現れやすい夏（6月～8月）の天候の特徴

1979年～2008年の統計調査による日本及び世界の天候の特徴は、以下の通りです。

日本の夏（6月～8月）の天候（図1）：

平均気温は、北日本、東日本、および西日本で低い傾向があります。降水量は、北日本太平洋側と西日本日本海側で多い傾向があります。日照時間は、北日本、西日本太平洋側、および沖縄・奄美で少ない傾向があります。

なお、今後の天候の見通しについては、最新の季節予報を参照してください。

世界の6月～8月（北半球の夏）の天候（図2）：

気温は、フィリピン北部～パキスタン南部、アフリカ中部、南米北部、オーストラリア南西部で高温傾向が見られます。オホーツク海周辺、中国南部周辺、カザフスタン東部～ロシア北西部、トルコ周辺、カナダ東部周辺、米国南西部で低温傾向が見られます。

降水量は、トルコ周辺、スペイン周辺、米国西部で多雨傾向が見られます。東シベリア～アラスカ西部、北米東部、南米北部周辺、ブラジル、オーストラリア中部で少雨傾向が見られます。

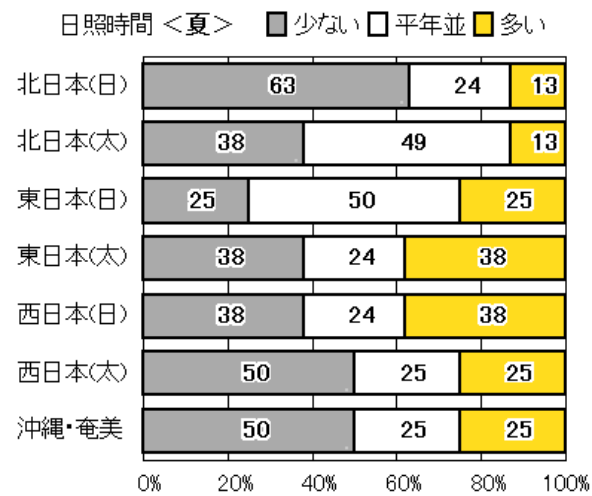
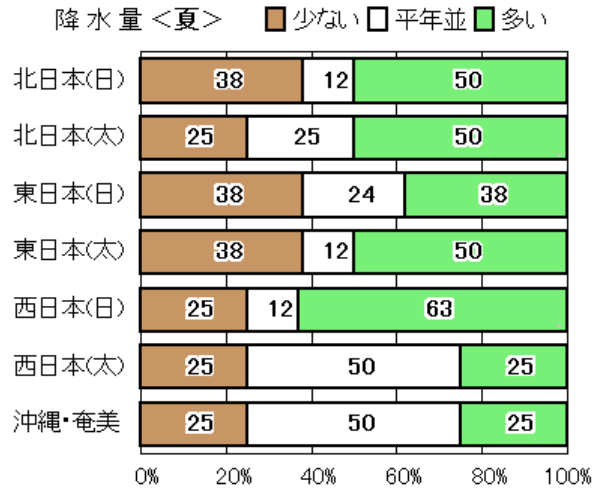
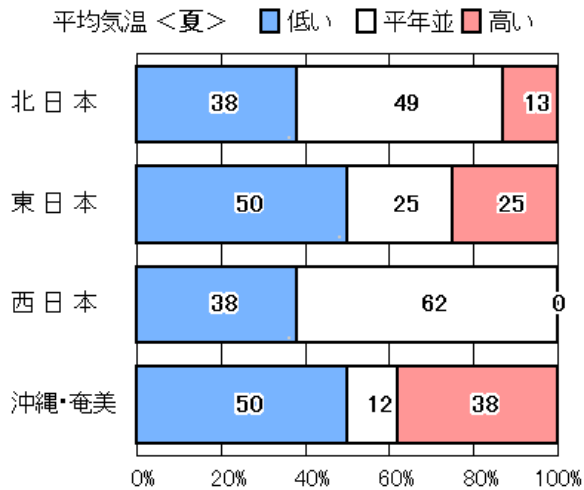


図1 エルニーニョ現象発生時の夏(6~8月)の天候の特徴(左上:気温、右上:降水量、左下:日照時間)
棒グラフ上の数字は出現率を示す。気温については長期的な変化傾向を除いています。

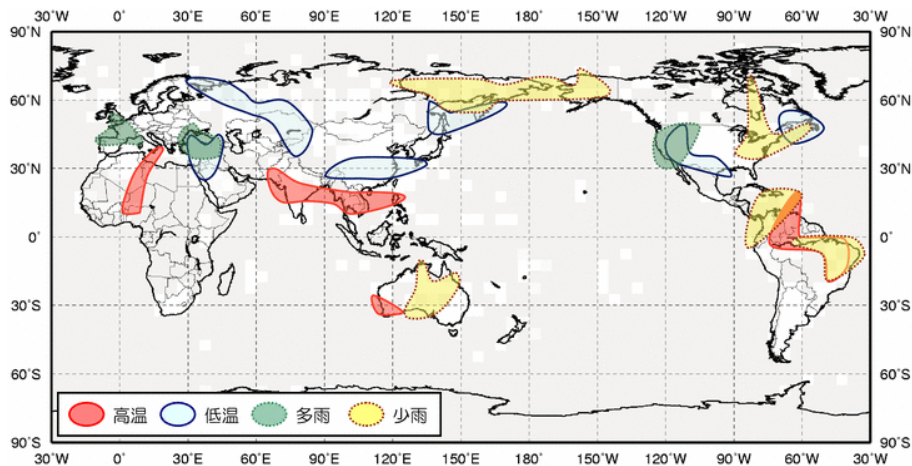


図2 エルニーニョ現象発生時の6~8月(北半球の夏)の天候の特徴

エルニーニョ現象発生年とエルニーニョ現象・ラニーニャ現象とも発生していない年とで比較し、検定の結果、危険率10%未満で有意な差のあった地域をまとめて分布図に示しています。また、灰色は観測データのない領域、薄い灰色は気温もしくは降水量のいずれかの観測データのない領域を表します。気温については長期的な変化傾向を除いています。